

野木町 教委だより

第2号
令和元年9月



令和2年度からプログラミング教育が導入されます

教育長 菊地良夫

令和2年度から小学校では新学習指導要領に基づいた教育課程が編成され、完全実施となります。今回の改訂で「特別の教科 道徳」や小学5、6年生からの「英語科」など新しい教科が盛り込まれました。更に新たに「プログラミング教育」が小学生段階から導入されることになりました。この教育は、主に社会、算数などの教科等の学習を指導する中で実施されます。

今まで小学生はコンピュータから情報を収集したり、ソフトを活用し文書を作成したり、あるいは問題を解いたりなど活用してきました。

今後は、ますます増える新しい情報機器やサービスとそれらによってもたらされる情報を、適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来しつつあります。

コンピュータを理解し上手に活用していく力を身に付けることは、あらゆる活動においてコンピュータ等を活用することが求められるこれからの社会を生きていく子どもたちにとって、極めて重要なこととなってきます。

そこで、「今までのコンピュータの情報収集等の活用」ばかりでなく「コンピュータの仕組みを知り、作動させる」学習を取り入れることにより、より主体的に活用していく力が身につくよう「プログラミング教育」が導入されました。

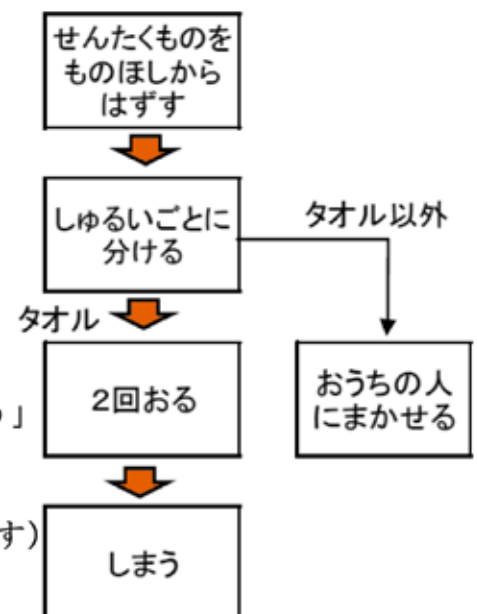
コンピュータはご存知のように「魔法の箱」ではなく、人が命令を与えることによって作動させるものです。その命令を組み立てることが「プログラミング」といいます。自分の考えた活動をプログラミングで実現するためには、活動を一つ一つの動きに分け、それを対応する命令に置き換え、どのように組み合わせるかといったことを論理的に考えなければなりません。このような考える力を「プログラミング的思考」といい、この教育の最も重視している力です。

プログラミング教育は3つのねらいがあります。

- ① プログラミング的思考を育むこと
- ② プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと
- ③ 各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、各教科等での学びをより確実なものにすること

それでは、プログラミング教育の第一歩の具体的な取り組み例を示します。

小学1年生生活科単元名「じぶんでできることをしよう」
Aさんは、「せんとくの手伝い」の中で
「じぶんでできること」を考えて、実行する時の作業の
手順と内容を右の図にまとめました。(プログラミングです)
これで、自分のできることが明確になります。



幼児教育・保育無償化について

幼児教育・保育の重要性や、子育て世代の経済的負担の軽減を図る少子化対策の観点から、令和元年（2019年）10月より幼稚園、保育園、認定こども園などの保育料（利用料）が無償となります。

対象となるのは、①幼稚園、認定こども園、保育園に通う3歳～5歳（卒園まで）のすべてのこども、②0歳から2歳までの住民税非課税世帯のこどもです。

また、保育の必要性の認定を受けた幼稚園児等の預かり保育料や、認可外保育施設を利用するこどもの施設等利用料も無償になります。（一部条件や上限があります）

給食の副食費（おかず、おやつなど）、通園送迎代、行事費などは、原則保護者負担となります。ただし、第3子以降や低所得世帯のこどもの副食費は免除になります。

通園状況によっては、申請が必要となるものがございますので、こども教育課（TEL 57-4138）またはご利用の園にお問い合わせください。

○令和2年度の保育園、幼稚園、学童保育の申込受付は下記のとおりとなります。

申込受付期間 保育所、認定こども園（第2号・3号）・・・10月3日（木）～11月1日（金）
幼稚園、認定こども園（第1号）・・・9月9日（月）～
学童保育・・・11月8日（金）～26日（火）

ブックスタート15周年

7月14日（日）にブックスタート15周年感謝状贈呈式が行われ、ブックスタートボランティア14名の皆さまへ、町より感謝状を贈りました。

平成16年8月からブックスタート事業が開始され、これまで2700組の親子に「絵本」と赤ちゃん絵本を開く楽しい「体験」をプレゼントしてきました。

毎月の4か月児健診、その後のフォローアップ事業の8か月児健診の際に、保健センターでわらべうた遊びや絵本遊びを行い、親子が絵本を介してふれあう温かいひとときを支援しています。これからもブックスタートボランティアの更なる活躍が期待されます。



文化会館（エニスホール）

○野木町文化会館直営化のお知らせ

野木町文化会館（野木エニスホール）は、公益財団法人野木町施設振興事業団（指定管理者）が管理運営を行っていましたが、4月1日より町直営となりました。

野木町文化会館は、文化を発信する拠点として、文化活動団体等に対する支援や育成を担う重要な文化施設であります。多くの人が集う交流の場として、町民が利用しやすい文化会館の運営や地域の文化振興や団体等の育成・支援につながる事業を行い、さらに、いろいろな文化芸術に触れ、文化芸術を受け継ぎ、創造し「文化の薫り高いまちづくり（文化のまち）」の推進に努めて参ります。

現在、誰もが親しみ・参加できる「鑑賞・体験事業」を実施しております。文化活動の推進の一環となるイベントを企画しておりますので、ぜひ参加していただければと思います。

○チケット販売所のお知らせ

7月2日から野木町公民館もチケット販売所となりました。チケットをご購入の際はどうぞご利用ください。

